

令和4年度



進んで学び 心やさしく たくましく

# 岳下っ子だより

二本松市立岳下小学校通信

令和5年3月13日

第 45 号

文責:校長 草野和代

## 震災から12年・・・

3月11日(土)、東日本大震災から12年となりました。学校では、3月10日(金)の午後、オンラインで追悼集会を行い、1日早く祈りを捧げました。



東日本大震災発生時、6年生は0歳の赤ちゃん、1～5年生はまだ生まれていません。震災を知らない世代の子どもたちは、福島食材を食べ、元気に校庭を駆け回っています。しかし、校庭の片隅にはモニタリングポストが残され、給食食材の放射性物質の測定が毎日行われています。今なお避難を続けている人がいます。そして、原子力発電所の廃炉には、さらに30年以上もかかると言われています。

追悼集会では、多くの人々が家族やふるさとを失った悲しみや苦しみにも耐え、乗り越え、復興への努力を続けたからこそ、「今」があることを伝えました。そして、震災で傷ついた福島をつくり直し、安心して過ごせる世の中をつくっていくのは、今の大人たちだけでなく、これから大人になる子どもたちでもあるということをお話しました。



一人一人の夢や希望は、平和で安全な毎日が続かなければ叶えられません。かけがえのない命を守り、安全で平和な日々を築くのは自分たちであるという自覚を、これからも教育活動の中

で育んでいきたいと思っています。

## 卒業まであと7日

6年生の卒業式まで、残すところあと7日になりました。先週から卒業式の練習も始まり、6年生は、これまでの小学校生活を振り返るとともに、中学校への期待を膨らませながら、岳下小学校で過ごす残りの一日一日を大切に過ごしています。



3月7日(火)には、「6年生を送る会」を開き、6年生に「ありがとう」と「おめでとう」の気持ちを伝えました。3月8日(水)には、6年生が教職員に向けて「感謝の会」を開いてくれました。

子どもたちの成長をしみじみと感じ、胸が熱くなる毎日です。

## ◇ 6年生を送る会

5年生が1～4年生に働き掛けて会場の飾りやプレゼント(写真とメッセージを記した色紙)を作り、前日に5年生が会場の飾り付けをしました。

当日は、感染対策のためオンラインを併用し、1～4年生は、自分たちの発表の時に体育館にやってきて、6年生に感謝の思いを伝えました。



集団登校、縦割り清掃、学校行事など、いろんな場面で6年生にお世話になった1年生。声を合わせ、身振りを付けて、感謝の気持ちを伝えました。歌のプレゼントもしました。



2年生は、「思い出のアルバム」を作り、歌ったり、演じたり、呼びかけたりして小学校生活の思い出をたどりました。



3年生は、写真をもとに6年生との思い出をたどり、リコーダーの演奏もしました。



発表学年の入れ替えの合間には、五年生が〇×クイズを出して六年生を楽しませました。



4年生は、〇×クイズで思い出をたどり、リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏もしました。最後に「ありがとう。がんばってください。」と文字でメッセージを伝えました。



五年生から六年生に、色紙のプレゼントが手渡されました。



6年生からも、「みなさん ありがとう」のメッセージが伝えられました。



## 6年生から教職員への「感謝の会」

6年生の優しい気持ちが伝わってきました



六年生の安田ゆめさんから、五年生の本田心愛さんに、鼓笛の指揮杖が受け継がれました。

花のアーチをくぐって六年生が退場します。出口のくす玉からは「ご卒業おめでとうございます」のメッセージが現れました。



## 伝統を受け継ぐ

岳下小学校の鼓笛が、6年生から4・5年生に受け継がれました。

写真は3月2日（木）に6年生なしで行った初めての全体練習のものです。引き締まった表情で真剣に練習に取り組む姿に、新たな歴史の始まりを感じました。



3月8日（水）の放課後、6年生が教職員への「感謝の会」を開いてくれました。クイズ、ドッジボール対戦、音楽と内容は盛り沢山。お花とメッセージカードのプレゼントまでいただき、心温まる素敵な時間を過ごすことができました。